

今週のメニュー

[トピックス](#)

ユニークなデザインの欧州発塩ビ製品

[随想](#)

環境指標（連載30）

金沢工業大学・(独)科学技術振興機構 上野 潔

[お知らせ](#)

【NEW】2009名古屋プラスチック工業展、招待展示のご案内

[編集後記](#)

トピックス

ユニークなデザインの欧州発塩ビ製品

このメルマガでも時々、JPECで季刊号として発行している「PVC News」について紹介していますが、今回は、VECに相当する欧州の業界団体、ECVMが出している“PVC Today Magazine”の話題を紹介します。PVC Today Magazineは、ECVMのホームページにも当然掲載されますが、我々VEC事務局にも海外から郵送されてくるので、毎回楽しみにしています。

PVC Today Magazineでは、建築分野からアート、ファッションなど様々な分野の塩ビ製品が紹介されます。その中には、日本ではとても考えられないような奇抜なものがあり興味をひかれます。

そのひとつが、塩ビリサイクル材を使った自転車ラックです。自転車ラックは駅前や街でよく見かけますが、ほとんどが金属製だと思います。それを塩ビリサイクル材で作ったのです。自転車ラックは風で倒れないようにするため、地面に固定したり、ある程度の重さが要求されますが、写真のようなデザインにすると塩ビ樹脂の重さのメリットが生かされ、設置するだけで済みます。更に、金属と違ったプラスチックのやわらかさが自転車のタイヤやリムを傷めないというメリットも生まれます。

現在は、シルバーとナチュラルカラーが用意されているようですが、好みの色に仕上げることも可能だそうです。街の景観もおしゃれな雰囲気になるのではないのでしょうか？



Photo : ECVM



Photo : CABKA GMBH

もうひとつ目を引いたのは、商品展示のショーケースとして“塩ビのしゃぼん玉”(塩ビの風船のようなもの)を使おうというあるデザイナーの発想です。商品展示には、まず人目を引くことが重要です。また、展示品を勝手に触れられることから守るという役目もあります。この点、商品をむき出しにするのではなく、展示台ごと“塩ビのしゃぼん玉”の中に入れ商品を守るという発想はさぞかし人目を惹くことでしょう。これまた、透明なフィルムを作れる塩ビの特徴がよく活かされたものと言えます。秋は展示会のシーズンです。こんな展示があったらちょっと足を止める人が増えるのではないかと思います。



Photo : ECVM

是非ご興味のある方は一度、ECVMのホームページをご覧になってみてはいかがでしょうか？(了)

<http://www.pvc.org/Media-Centre/PVC-Today-Magazine/PVC-Today-Summer-2009>

随想

環境指標(連載30)

金沢工業大学・(独)科学技術振興機構 上野 潔

技術分野でも社会分野でも定量的な指標が無いと評価はできません。大辞泉によれば指標とは「物事を判断したり評価したりするための目印となるもの」と説明されています。リトマス試験紙でお馴染みのpH(水素イオン指数: Power of Hydrogen)は良くご存知ですね。最近では経済分野の指標が増えました。GDPやTOPIX、企業の財務指標である長期発行体格付などの指標もお馴染みです。指標で重要なことは「客観的、普遍的である」「定義がはっきりしている」「誰がどこで計算しても同じ結果が得られる」「国際的に認知されている」「使用するデータベースが認知されている」などでしょう。特定の分野にだけ都合の良い指標は困るのです。

環境に関する指標も沢山あります。2006年に閣議決定された第3次環境基本計画では、6分野の環境に関する指標群を紹介しています。

例えば、地球温暖化分野では「温室効果ガスの年間総排出量」、物質循環分野では「資源生産性」「循環利用率」「最終処分量」、大気環境分野では「大気汚染に係る環境基準達成率」「都市域における年間30 超高温時間数」「熱帯夜日数」そして皆様に関係が深い化学物質分野では「PRT R対象物質のうち環境基準・指針値が設定されている物質等の環境への排出量」などが例示されています。

また、「エコロジカルフットプリント」「人間開発指標」「環境効率指標」「ファクターX」「真の進歩指標」「持続可能性指数」「グリーン国民総生産」「人間満足度尺度」「エコロジカルリユクサク」「LCA」もあげられています。

さてこの中でいくつご存知ですか？メルマガの読者は環境にも関心が高いので多くの指標をご存知と思います。しかしその意味と定義をご存知ですか？ 指標の目的は「物事を判断したり評価したりするための目印」でした。GDPは大きいほど良い？(最近ではGD

Pの大きさや順位ではなく、国民一人当たりのGDPが評価されるようになって来ましたが)経済成長率も高いほど良い?(いや成長率が低いことが先進国の証しです)それでは、人間開発指標は?ファクターは?数値だけが与えられたとき判断したり評価したりできるでしょうか?

環境に関する指標がこれほど多く、しかもあまり普及しないのは定義が複雑で直感的な理解が難しいことにあると思います。中学で習ったエンゲル係数などは日本が貧しかった頃はよく理解できました。厚生労働省が発表している所得分配やエネルギー配分の不平等性を表現するジニ係数になると、解釈にも幅があり直感的には理解が難しい学際的な指数と言えるでしょう。

学校の成績で、絶対評価と相対評価が議論されたことがありました。相対評価は非民主的で子供の成長の芽を摘むと非難されました。しかし評価は比較するためにあるのです。全員「よく出来ました」では成績が付けられないのです。企業の査定はもっとシビアです。全員「普通」ではボーナスの査定になりません。公務員はいまでも全員「普通」のようでびっくりですが。

環境の指標も同じです。常に他と比較して指標の意味が出てきます。電気製品の省エネラベリングの指標も、目標を達成すれば「緑色マーク」未達成であれば「オレンジマーク」でしたが、殆ど全ての電気製品が「緑色マーク」になり、もはや指標としての意味がなくなりました。

そこで統一省エネラベルでは、5つ星冷蔵庫、4つ星エアコンなど星の数による差別化を目指したのですが、競争の激しい日本市場ではすぐに皆同じになってしまいます。

省エネマークは、日本だけでなく欧州始めアジア諸国でも独自のマークを考案し製品に表示しています。省エネ製品の開発は使用電力の削減になり地球温暖化防止にも貢献するのでこれからも競争して欲しいのですが、世界共通の指標によるマークであれば一層わかりやすいと思います。

いまや国民用語となった3R分野では、リサイクル率、再商品化率、リカバリー率、回収率などの指標が乱立していてそれぞれ定義が異なります。日本独自の再商品化率などは海外で何度説明しても、その場では理解されても欧州のリサイクル率と混同される悲しい指標です。回収率も循環型社会の達成度を評価する重要な指標であると思いますが、定義がはっきりしていません。

環境分野で、いろいろな指標が考案されることは、それだけ環境の評価に多様性があり簡単ではないことを示しています。環境には答えがたくさんあります。LCAを実施すれば、省エネだけが環境の指標では無いこともわかります。環境はリトマス試験紙で判定できるほど単純ではないのです。従って多くの指標が乱立するのも今はやむをえないかもしれません。環境指標は明確な定義と正しい解説をつけて使うことによって、徐々に整理統合されていくものだと思います。(了)

前回の「LCAの発展と懸念」(連載29)は、下記からご覧頂けます。

http://www.vec.gr.jp/mag/238/mag_238.pdf

お知らせ

【NEW】2009名古屋プラスチック工業展、招待展示のご案内

「プラスチック産業の未来が見える！」と銘打った、2009名古屋プラスチック工業展が以下の通り開催されます。

テーマ展示「自動車・医療・航空機・農業・住宅各分野でプラスチック産業拡大」の招待ブースに、塩ビ工業・環境協会の「塩ビミニハウス “Vien pod (ビエンポッド)”」が展示されます。

“Vien pod”とは？ <http://www.vec.gr.jp/topics/new141.htm>

- ・日 時 : 2009年10月4日(日)～10月7日(水)
10:00～17:00(最終日のみ16:30終了)
- ・場 所 : ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)
- ・入場料 : 500円(下記HPより事前登録いただくと無料となります。)
: <http://www.uketuke.jp/platen/> (10月2日まで受付)
- ・2009名古屋プラスチック工業展のホームページをご覧ください。
: <http://www.nikkan.co.jp/eve/pla/index.htm>

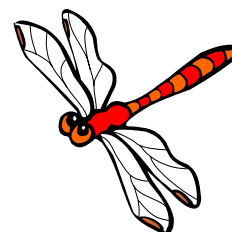
編集後記

朝晩涼しくなり、虫の声も木の上から草の中にバトンタッチしましたね。

先日、出勤途中にコンビニに入ったところ、店員さんが二人、天井の方を見上げて何か慌ただしくしていました。何かと思ったら、店内に『アキアカネ』とおぼしきトンボが入っていました。まあ、ゴ

出現！という訳ではないので、和やかなムードも漂っていて、女性の店員さんに虫取り網を持たせて、男性の店員さんが「網をかぶせて中で飛んだら、横にずらすようにしながら網を返して…」などと指導していて、幼い兄妹のようで微笑ましかったです。お店を出るときもまだ格闘していましたが、どうなったでしょう。

アキアカネも来て、クールビズも終わって、秋ですね。(漠)



関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#) ・ [メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601 FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp> E-MAIL info@vec.gr.jp